



人 人

# にんにん連携



## 「第6回甲賀圏域在宅医療推進フォーラム」が開催されました

甲賀健康福祉事務所（甲賀保健所） 荒木 勇雄

このフォーラムは甲賀圏域医療福祉推進協議会と共催で開催しており、今年で6回目となりました。医療や介護の連携による在宅療養のあり方を住民のみなさまと共に考える機会になったと思います。

「病や障害があっても、医療や福祉サービスを受けながら自分らしく暮らす」ことのできる地域をめざして、専門職が連携した在宅ケアの提供体制づくりや住民ボランティア等による生活支援や地域づくりの取り組みを進めなければなりません。一方、本人・家族が在宅療養をするための心構え・覚悟を醸成するために、在宅療養の仕組みや取組みについて市民に情報提供することが欠かせません。このフォーラムをはじめとした地域住民の皆さまへの情報発信は、関係機関・団体みなさんと協働してこまやかに取り組んで行く事が大切だと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

### 第6回 甲賀圏域在宅医療推進フォーラム 結果報告

「大丈夫？大丈夫！」のテーマのもと、在宅医療を考える市民フォーラムを開催しました。

基調講演では「家に帰れない患者はいない！」家族と楽しく生活することを支える在宅緩和ケア、在宅看取りの取組みについてご講演いただきました。

在宅看取りについての寸劇では、在宅での最期を選択されたご家族と、そのご家族を支える様々な専門職の関わりを具体的で真に迫ったお芝居で紹介いただきました。パネルディスカッションでは、複数のモデルケースへの支援について、地域で在宅療養支援に取り組む多様な専門職の方々と一緒に考えました。



- 日 時 平成29年2月5日（日）13時～16時30分
- 場 所 碧水ホール
- 参加者 住民81人 医療福祉従事者等 153人 計234人
- 主 催 甲賀圏域医療福祉推進協議会
- 共 催 一般社団法人甲賀湖南医師会、甲賀市、湖南市  
甲賀圏域地域連携検討会、滋賀県甲賀健康福祉事務所（甲賀保健所）

#### 内 容

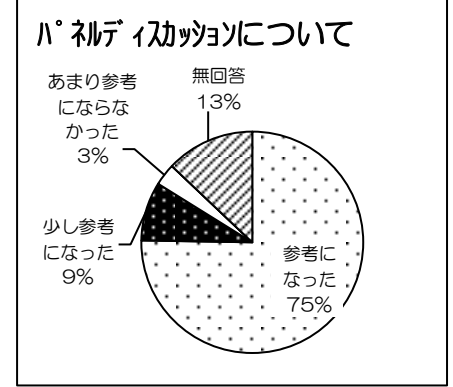
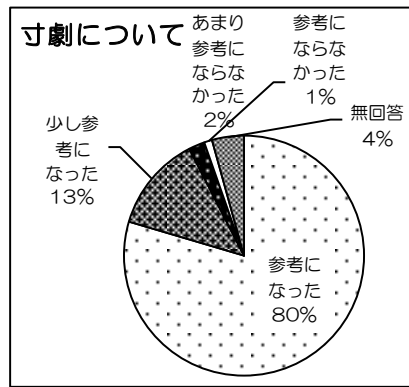
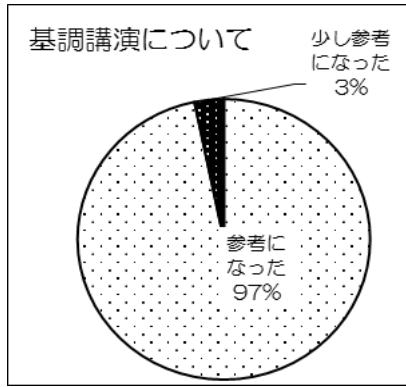
- (1) 基調講演「在宅で看取る・・・在宅緩和ケアのコツとポイント」  
[講師] 要町病院副院長 / 要町ホームケアクリニック院長・医学博士
- (2) 在宅看取りについての寸劇「『家で最期を迎えたい』その思いを支えます」  
[出演] 甲賀市社会福祉協議会
- (3) パネルディスカッション「在宅 い・ろ・は」  
[助言者] 医療法人社団仁生会甲南病院 理事長 古倉 みのり 氏  
[進行役] 甲賀市、湖南市（地域包括支援センター）  
[パネリスト] 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、リハビリ職、歯科衛生士、  
栄養士、訪問看護師、介護支援専門員（ケアマネ）、介護職等



吉澤 明孝 氏



アンケート集計の結果



《感想から一部抜粋》

《基調講演》

- ・緩和ケアの考え方が変わった。最期まで生きるための選択だと思う。(40代・女性)
- ・在宅医療、看取りは家族と楽しく生きるのを支える医療ということを中心に留めておきたい。(50代・女性)

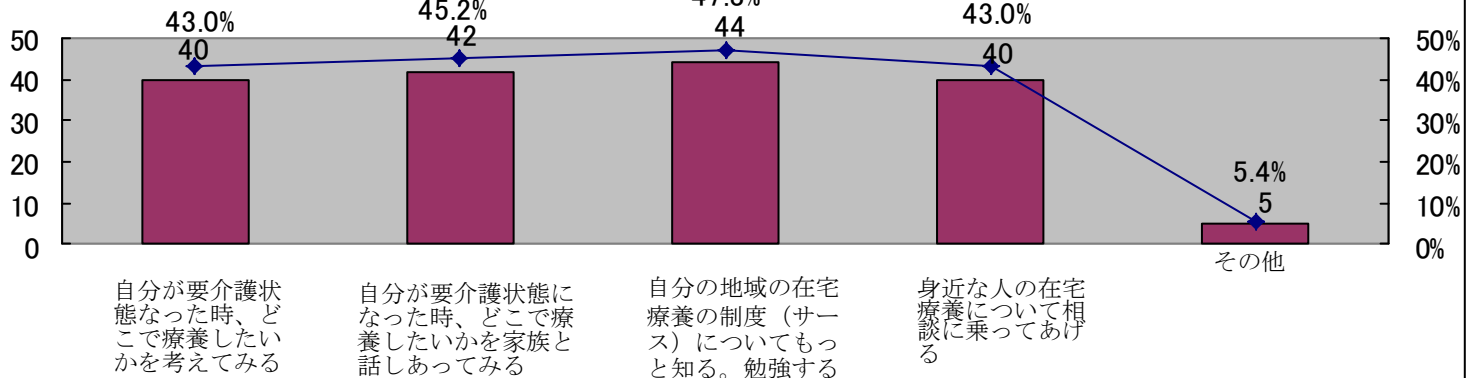
《寸劇》

- ・実際の進み方やメンバーが具体的に分かり易かった。家族の思いや、本人の思いに沿ってそんな風に看取れたらいいだろうと思った。各サービスの関わり方も分かり易かった。(20代以下・女性)
- ・身近に感じれる劇で、介護、入浴など実体験のようでよくわかった。(60代・男性)

《パ° 初 デ ィ カ ッ シ ョ ン》

- ・各専門職が説明する方法は分かり易く、具体的にイメージできた。医師が話をされるのは、より身近な存在と思えるので良かった。(50代・女性)
- ・大丈夫?じゃなく、大丈夫になった。(40代・女性)

《今後してみようと思ったこと》



《在宅療養を進めるための必要な取り組み、意見など》抜粋

- ・とても分かり易く良かった。地域の街単位でもこのような広報を広げていくことが住民への認知につながり将来の問題の解決につながると感じた。(40代・女性)
- ・もっと他職種と連携が取れるようになればと思った。(30代・女性)
- ・在宅で家族に看取られるのが理想であるが、独居の方へのアプローチ、今後問題となると思うが地域を巻き込んで考えていかないといけないと思った。(40代・女性)

来年度の参加もお待ちしております!!

